

東カリブ諸国機構（OECS）6カ国内政、経済、外交月間報告

（注：アンティグア・バーブーダ（アンティグア）、ドミニカ（国）、グレナダ、セントルシア、セントクリストファー・ネイビス（セントキッツ）、セントビンセント及びグレナディーン諸島（セントビンセント））

（2021年8月）

在トリニダード・トバゴ日本国大使館

1. 概況

- セントビンセントで一部公務員にワクチン接種を義務付ける法案審議に際して、ゴンザルベス首相が反対活動者から投石を受け、負傷する事件が発生し、同首相は野党の扇動を批判し、各国もこの暴力行為を批判。
- 一部の国でコロナ感染者が増加し、殆どの国でデルタ株の感染が確認されており、夜間外出禁止強化等の措置が取られた。米国からファイザーの寄贈が実施され、各国とも12歳以上の学生中心に接種を始めたが、ワクチン接種を義務化するような動きには反対の動きもある。
- 7月のセントルシア総選挙で勝利したピエール政権の閣僚就任式が行われ、外務大臣にはバプティスト大臣を任命した他、2人の無所属議員も入閣した。ピエール首相は、呉台湾外交部長との電話会談を実施した。
- 東京オリンピックで訪日中のグリー・アンティグア外務大臣は茂木外務大臣と会談し、二国間及び国際的課題についての協力を協議した。

2. 内政

（1）新型コロナウイルス

- 3日付ドミニカ紙は、スケリット首相は、感染が増加していることから、午後6時から午前5時までの夜間外出禁止、必要不可欠でない店舗の閉店等の規制強化を発表したと報道。
- 4日付アンティグア紙は、政府は、過去14日間にブラジルないし南アに滞在した渡航者の入国を制限するとの規制を発表したと報道。
- （デルタ株感染）6日、セントビンセント保健省は、英国からのワクチン完全接種旅行者からデルタ株が確認された、27日に更に2人の感染が確認と報道。12日付グレナダ紙は、保健省は国内初のデルタ株3件確認を発表したと報道。14日、セントルシア保健省は、国内で初となるデルタ株3件及びアルファ株3件の確認を発表。18日付セントキッツ紙は、同国初のデルタ株の感染が確認されたと報道。31日付ドミニカ紙は、保健省はデルタ株感染が確認されたと発表したと報道。
- 7日付ドミニカ紙及び9日付セントビンセント紙は、6日、英国からアストラ

ゼネカがそれぞれ12,000回分及び14,000回分が到着したと報道。

●8日付セントキッツ紙は、午後11時から午前5時までの夜間外出禁止は23日まで延長されたと報道。

●11日付セントルシア紙は、ピエール首相は、31日まで夜間外出禁止開始時間を午後11時から9時に変更、店舗閉店時間を午後8時とする等の規制強化を発表したと報道。

●(米国のファイザー寄贈)13～19日付各国紙は、米国がカリコムに寄贈したファイザーの各国への送付が始まり、各国とも12歳以上の学生を中心に接種する予定と報道。各国別受領数は、アンティグア17,750回分、セントキッツ11,700回分、セントビンセント35,100回分、セントルシア52,650回分、グレナダ29,250回分。19日付ドミニカ紙は、スケリット首相は、米国寄贈のファイザーが数日以内に到着すると述べたと報道。

●17日付セントビンセント紙は、台湾は、酸素濃縮器30台を寄贈したと報道。

●17日付ドミニカ紙は、初のコロナ死者が発生し、スケリット首相がお悔やみを述べた、政府は夜間外出禁止を23日まで1週間延長したと報道。24日付現地紙は、政府は3週間に及ぶ夜間外出禁止を解除した、スケリット首相は、ワクチンを強制しないが、接種を呼びかけたと報道。

●18日付アンティグア紙は、米疾病管理予防センター(CDC)は同国の渡航勧告をレベル2に引き上げたと報道。

●19日、セントルシア政府は、平日の夜間外出禁止を午後9時から午前4時までとし、店舗営業は午後8時までとする、金土日は午後7時から、日曜は午後4時からの外出禁止とする等の規制変更を発表。

●23日付ドミニカ紙は、中国は、PCR検査キット1万個を寄贈したと報道。

●25日付アンティグア紙は、政府は、感染防止強化のため、夜間外出禁止を午後8時からとする等の規制強化を発表したと報道。

●28日付アンティグア紙は、27日保健省はアフリカ医療供給プラットフォームを通じてジョンソン&ジョンソン38,400回分を受領したと発表したと報道。

●31日付セントルシア紙は、米疾病管理予防センター(CDC)は同国の渡航勧告をレベル4に引き上げたと報道。

●31日付セントビンセント紙は、第11次欧州開発基金(EDF)からカリブ公衆衛生局(CARPHA)を通じて個人防護服等が贈与されたと報道。

(2) その他内政

●5日付セントルシア紙は、同日ピエール新政権の閣僚就任宣誓式が実施され、外務大臣には、バプティスト大臣が就任し、今回無所属で当選したキング前インフラ大臣及びフレデリック議員も入閣したと報道。同日付アンティグア紙は、ブ

ラウン首相（カリコム議長）もこの就任式に出席したと報道。

●5～6日付セントビンセント紙は、ゴンザルベス首相は、一部の公務員にワクチン接種を義務付ける公衆衛生法改正案の議決のため議会に入ろうとしたところを法改正反対の野党が率いる抗議参加者から頭部に投石を受け負傷し、バルバドスで検査、治療を受けた、犯人は逮捕された、同改正法案は可決されたと報道。6日、ラロック・カリコム事務局長及びミッチェル・グレナダ首相（OEC S議長）は、ゴンザルベス首相への攻撃を非難する声明を発表。7～9日付同国紙は、ゴンザルベス首相は、MRI検査でも問題はなかったが、今後再検査する必要がある、同首相は、この暴力を批判する、野党が怒りと憎しみを助長した結果であると述べたと報道。

●9日付アンティグア紙は、第2代首相を務めたバード元首相が逝去したと報道。26日に国葬が行われた。

●17日付セントビンセント紙は、ゴンザルベス首相は、フライデー野党党首他、新聞2紙等を虚偽報道による名誉毀損で提訴すると述べたと報道。

●18日付セントルシア紙は、政府は、前政権の汚職を捜査する特別検察官を任命すると発表したと報道。

●25日付セントキッツ紙は、ファイナンシャル・タイムズが発行する雑誌での世界の投資のための市民権プログラム評価で、セントキッツが最高位に選ばれたことを歓迎すると述べたと報道。

3. 経済

●3日付セントビンセント紙は、欧米航空会社の同国へのフライト再開に関し、エアカナダは11月1日、アメリカンは10月13日、バージンアトランティックは10月15日から再開すると報道。

●6日付セントキッツ紙は、公共インフラ省及び台湾は、再生可能エネルギー導入支援に関する協力合意の署名式を実施したと報道。

●10日付アンティグア紙は、政府は、ドミニカ共和国でのアフリカ豚発生により、同国からの豚肉関連製品の輸入を禁止したと報道。

●11日付セントキッツ紙は、農業省は、サルガッサム海藻を肥料や動物飼料に活用する研究を進めていると述べたと報道。

●13日付アンティグア紙は、観光省は、7月の航空旅客到着数は23,405人と、17～20年の同月実績をいずれも上回ったと報道。

●16日付セントルシア紙は、カリビアン航空は、トリニダード・トバゴとセントルシア間の直行便を再開したと報道。

●17日付セントキッツ紙は、水産局は、今年上半期の漁獲水揚げ量は、前年同期比で36%増加したと発表したと報道。

- 18日付アンティグア紙は、IMFは、同国との4条協議の報告書で、20年の同国成長率は▲17.3%、21年上半期は▲1%、22年は8.5%と予測されるが、財政安定化と政府部門の改革が求められると発表したと報道。
- 19日付セントキッツ紙は、英国航空は10月3日よりロンドン（ガトウィック）とセントキッツ間の直行便を再開すると発表したと報道。
- 27日、セントキッツ情報局は、台湾は、ハリス首相に対して社会インフラ整備のための無償資金協力供与を約束したと報道。

4. 外交

- 4日、東京オリンピック関連で訪日中のグリーン・アンティグア外務大臣は茂木外務大臣と会談し、両国が基本的価値を共有する重要なパートナーであることを確認し、国際的な諸課題についての協力等を協議した。
- 4日付セントルシア紙は、2日ピエール首相は、呉台湾外交部長とビデオ会談を行い、呉部長は総選挙でのセントルシア労働党の勝利に祝意を述べ、セントルシアとの友好協力関係を強化したいと述べ、同首相の台湾訪問を招請した、ピエール首相は、台湾の支援や協力に謝意を述べ、台湾との関係及び協力を強化すると述べたと報道。
- 5日、東京オリンピック陸上男子400メートルで、グレナダのジェームス選手が銅メダルを獲得。
- 9日付セントルシア紙は、リカウシ・ベネズエラ外務副大臣他が同国を訪問し、ピエール首相を表敬訪問し、同首相就任に祝辞を述べ、ピエール首相は、ベネズエラ問題に対する同国の立場は、内政不干渉というカリコムとの立場と同一であると述べたと報道。
- 12日、OEC Sは、11日に特別首脳会合を開催し、ワクチンへの信頼度に関する政策枠組を検討し、法律専門家から公衆衛生上の利益と個人の権利との均衡を保つか等につき法的助言を求めたと発表。
- 14日、OEC Sは、ハイチの大地震にお見舞いを述べる、迅速に必要なとされる救援を届けるため国際的な人道活動の調整を求めるとのOEC S首脳声明を发出。
- 16日付セントビンセント紙は、ゴンザルベス首相は、ハイチの地震被害に対し10万米ドルの寄付を行うと発表したと報道。
- 18日付セントビンセント紙は、ボーマン駐台湾大使は、セントビンセントと台湾の外交関係樹立40周年に際し、両者の関係は順調に発展した、特にセントビンセント大使館が開設されて以降のこの2年は大きく強化されたと述べたと報道。
- 20日付セントキッツ紙は、台湾系のシンプリーヘルプ財団は、6万6千米ド

ル相当の種々の支援物資を政府に寄贈したと報道。22日付セントビンセント紙は、同財団は6万3千東カリブ相当支援物資を政府に寄贈したと報道。

●26日付ドミニカ紙は、25～27日ドミニカで国連脱植民地特別委員会のセミナーが開催され、非自治地域の現状の現実的な分析や評価等がなされていると報道。

●28日付アンティグア紙は、27日グリーン外務大臣及びイスワント同国兼轄インドネシア大使は、査証免除協定に署名したと報道。

●30日付セントビンセント紙は、ゴンザルベス首相は、キューバ向けに140万東カリブドル相当の人道支援物資を送付すると発表したと報道。

※これは、報道等公開情報をまとめたものであり、報道の真偽まで確かめたものではありません。